

# 多文化共生ひろば

問合せ 秘書広報課 多文化共生・交流係  
(☎27-8240)

このコーナーでは、宇佐市の外国人住民や支援者、市の取り組みなどについてご紹介します。みんなが暮らしやすい多文化共生社会を作るためにまずは知ることから始めませんか。

来る前の日本は夢の国で、早く行きたいと思っていました。しかし、日本に来てみると、仕事も生活も慣れず友達もおらずきつかったです。家族や子どもに会いたくて、ベトナムに帰りたくて仕方ありませんでした。そんな時、日本語教室のことを知りました。先生方は優しく熱心です。日本語を教えるだけでなく、伝統文化も体験させてくれます。私の「第2の家」です。

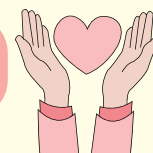
また、市外国人総合相談センターも私たちを助けてくれます。相談や楽しい活動ができます。そして、会社のお母さんたちにも「ありがとう」を伝えたいです。いつも優しく、心配してくれます。「第2の母」です。

日本に来て楽しいことばかりではありません。でも、周りの人たちが助けてくれます。皆さんに伝えたいことは「ありがとう」です。皆さんの健康と幸せを願っています。



お便りをくれた方

名前 グエン ティ トゥエン NGUYEN THI TUYEN さん 国籍 ベトナム  
住所 江須賀 職場 ㈱長浦製網所



心も体も  
地域も元気に！  
食育レシピ  
recipe

冬も旬！

長洲漁港で取れる寒鰯

\ check! /



問合せ / 健康課 健康増進係 (☎27-8137)

サワラの旬は春のイメージですが、実は一番脂がのっている季節は冬で「寒鰯」と呼ばれています。長洲漁港で多く水揚げされており、これからの季節、おいしいサワラが食べられます。身がやわらかく、加熱してもふっくらとした食感が楽しめる魚です。



## サワラのりゅうきゅう

材料 (2人分) .....

- ・サワラ (刺身用) 150 g
- ・小ねぎ 適量
- A
- ・酒 大さじ1
- ・みりん 大さじ1
- ・濃口しょうゆ 大さじ2
- ・おろしショウガ 小さじ1
- ・白いりごま 小さじ1
- ・お好みで大葉など



- 【1】サワラをそぎ切りにし、小ねぎは小口切りにする。
- 【2】耐熱容器にAを入れて混ぜ、ラップをせずにレンジ600Wで30秒加熱して粗熱をとる。
- 【3】2にサワラ、ごまを加えて混ぜ、漬け込む。
- 【4】器に盛り、小ねぎを散らし、お好みで大葉を添えたら完成。

☆市ホームページでは、さらに詳しい作り方や他のレシピも紹介しています。

## 大砲を造る その2

宇佐市長 是永修治

江戸時代、宇佐市には「豊州御領」と呼ばれた島原藩の飛び地があり、その一部であった安心院町佐田地区は宿場町として栄えました。その地の有力者であった賀来家を25歳で継いだ惟熊は、ろうそくの原料として

需要の高かった櫨を植林。また、溶かした金属を型に流し込み加工する鋳物業を手掛けたほか、井堰などの修復工事も度々行うなど、村人の利益や安全のために尽力しました。

余談ですが、女優の賀来千香子さんは惟熊の直系の子孫にあたります。宇佐学漫画シリーズの中で「先祖に大砲を造った人がいると聞いていた。惟熊の肖像画を見たとき、祖父に似ていると思ひ、親しみを感じた」とコメントしています。

アヘン戦争を機に海防強化が急がれる中、日出藩の家老であ

り儒学者の帆足万里は、賀来家の財力や技術力に着目、師弟関係にあった惟熊に大砲造りを勧めます。惟熊は日出藩の注文に応じる形で、4人の息子たちとともに青銅製の砲造りに着手します。

青銅砲造りに成功した惟熊たちは日出藩に納入しますが、青銅製は鉄製に比べ熱に弱く、飛距離でも劣ります。西洋の船には既に鉄製大砲が配備されており、鉄製大砲の開発が急務となりました。1853年、ペリー来航の年、惟熊たちは島原藩の許可を受け、鉄製の砲造りに取り掛かります。続く。



賀来千香子

平和ミュージアム（仮称）開館に向けて  
kioku wo tsunagu

## 記憶をつなぐ

このコーナーでは、戦後75年以上経って体験者の声は薄れゆく中、戦争の実像を伝えるためにこれまでで収集した資料や今に残る戦争遺構にまつわる「記憶」を紹介していきます。

## 65 上野六十男飛行兵曹長の日記

上野六十男飛行兵曹長は第4期予科練習生出身。艦上攻撃機の搭乗員として、昭和14年12月～16年まで宇佐海軍航空隊（宇佐空）で教員を勤めました。昭和18年11月5日、空母「瑞鶴」の艦攻隊として第1次ブーゲンビル島沖航空戦に参加し、戦死。日記には、宇佐空での訓練指導の様子や自身の心境、家庭生活などがつづられています。



■ 戦争関連資料を収集しています。提供していただける方は社会教育課 文化財係（☎27-8199）にご連絡ください。資料は平和の尊さを学ぶために活用いたします。

問合せ 社会教育課 平和ミュージアム建設準備室（☎27-8200）